



The Count of Clouds

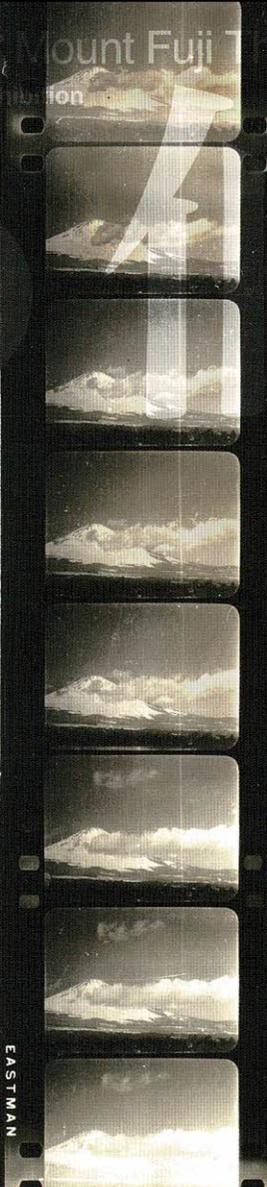
Mount Fuji Through the Eyes of Masanao Abe

特別展示 Special Exhibition

# 雲の

# 白爵

—富士山と向き合う阿部正直



## 歴史資料室

福山市霞町一丁目10番1号 まなびの館ローズコム4階  
開館時間：10:00-18:00  
休館日：月曜日、祝日  
入館料：無料  
共催：福山市+東京大学総合研究博物館

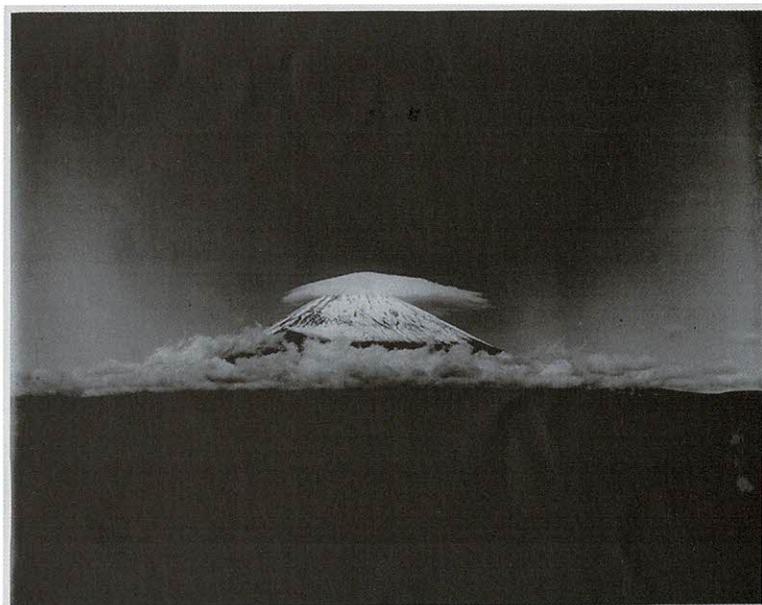
2020.10.3sat—11.29sun



# 「雲の伯爵——富士山と向き合う阿部正直」

「富士」は日本を代表する名山として古くから人々に親しまれてきました。国内に数多ある山のなかで、2013年、富士山がユネスコの、自然遺産でなく、文化遺産として登録されたのには訳があります。富士山は日本人にとって「霊峰不二」であり、精神文化の拠り所として格別の意味をもっているからです。古来、日本文化の象徴的な存在としてあり続けた富士山を、科学の眼で半世紀以上に亘って見つめ続けた一人の日本人がいます。福山藩最後の藩主正桓の長男で、気象学者の阿部正直（1891-1966年）です。武家の名門の当主となった阿部は、雲に関する研究をおこなうべく、1927（昭和2）年、富士山麓の御殿場の高台に「阿部雲気流研究所」を創設し、富士山に生じる山雲と気流に関する膨大な観察記録を残しました。幼少期に「活動写真」（キネマトグラフ）の国内初上映の場に立ち合うという僥倖に恵まれた阿部は、爾来、<sup>じらい</sup>変容するものを捉える画像の魅力に取り憑かれ、自らの研究対象である雲の観察にそれを応用すべく、様々な観測記録機器を考案し、気象現象の記録採取に情熱を傾けました。雲研究において写真が有効であることは、19世紀後半以来、各国の研究者の間で知られていました。しかし、映画手法という着眼は、気象学の分野における世界初の創意でした。山雲の観察記録という口実の下に阿部の残した「富士山と雲」の写真は、今日ではもはや見ることの叶わぬ、戦前の富士の山容を捉えた写真芸術品でもあります。

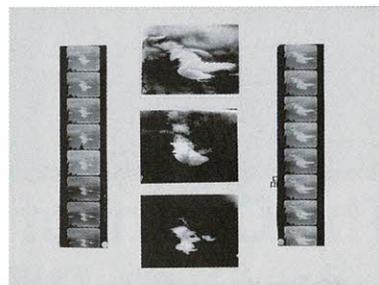
本展では、東京大学総合研究博物館が所蔵する阿部正直コレクションから、記録写真や研究資料をはじめ選りすぐった約50点を紹介します。



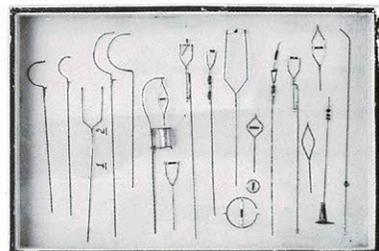
富士山の笠雲



雷観測所における阿部正直



かさばり雲の中風雲連続写真



模型気流風洞実験風向指標試作

〈アクセス〉

- JR福山駅から南へ徒歩約15分
- JR福山駅前からバス2分「霞町バス停」下車 徒歩約3分
- 隣接の市営霞駐車場は1時間無料になります。

